

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100306		
法人名	医療法人長寿会 清原龍内科		
事業所名	グループホームイチヨウの木 若葉		
所在地	長崎市川口町8-20		
自己評価作成日	令和3年12月1日	評価結果市町村受理日	令和4年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 4年 5月 19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症であれば、どのような利用者でも受け入れており、適切な介護と医療サービスの提供を行い、看取りまで行っている。現在、平均介護度が4.2を超えており、要介護3から要介護5の利用者が入居しており、重度化した利用者への対応のみならず、比較的軽度な利用者のその時々意向に合わせたり、認知症による周辺症状が強い利用者への個別対応を細やかに行うなど、家庭的な雰囲気の中でも、認知症に対する専門的な対応を行っている。医療機関に併設されていることにより、急変時から看取り時までの医療的なサービスをタイムリーに提供出来ており、入院等に伴う大きな環境変化を経験することが少なく、利用者は住み慣れた環境の中で穏やかに暮らす事が出来ている。それが家族の安心にも繋がっていると思われる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は母体医療法人の医院と併設し、医療と介護の両輪で地域の人を支えたいという医師である創設者の思いから、「認知症という病気をもつ入居者の方々が病期のどの段階でも普通の生活が出来るように専門的に援助致します」を法人理念としている。365日24時間の医療連携体制の下、「医療連携シート」にて毎日利用者の健康状態を階下の医療機関に報告し、些細な変化や夜間急変時の対応、看取り支援の事例の多さは事業所の強みであり、本人・家族、職員の安心と信頼に繋がっている。「職員セルフチェックリスト」は職員一人ひとりが理念を確認し、個人目標、支援の実践等を毎月振り返っており、管理者にとっては職員の状況を把握するツールとなっている。また、常に利用者の視点に立ち、本人の思いを100%叶えることができるよう専門職としての高い意識のチームワークを構築している。利用者が楽しく暮らせるように統一した支援で理念の具現化を追及している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に地域に根ざしたグループホームを目指すと言文の中にあり、入社時オリエンテーションや会議等での理念の確認の際にも実践について職員と話し合っている。	法人理念を具体化した事業所の介護理念があり、目に留まる箇所に掲示している。職員は毎月「職員セルフチェックリスト」にて理念の振り返りを行っている。介護度が上がっていく利用者の体調や思いに寄り添い、どの段階でもその人らしい生活が送れるよう、職員は理念の具現化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、散歩や買い物などを行い地域の中で暮らしている。	自治会に加入しており、職員は市民大清掃に参加している。現在、地域との交流は難しい状況である。コロナ禍以前は、地域住民が消防避難訓練に参加したり、利用者と共に近隣商店へ買い物に出掛けたり、実習生の受け入れ等、地域との繋がりを大切にしており、コロナ禍収束が待たれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、学生の実習などを通してグループホームの役割や認知症についての理解を深めてもらえるような話をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加される方々の意見要望などを直接聞くことでサービス向上に生かすことが出来た。コロナの影響により、令和1年第6回の運営推進委員会以降は書面での会議になっている。	年6回、書面会議を行っており、利用者状況や事業所の活動内容等、文書で運営推進委員に報告している。回答用紙にて意見・助言等得る方法であり、事業所は意見に対し返答し、運営に活かしている。ただし、行政等数名の意見回収に留まっており、他の委員の回答は届いていない。	運営推進会議での意見や要望等を事業所の運営に活かすためにも、書面会議においても全運営委員から意見を収集する工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護相談訪問を受け入れ相談アドバイスをいただいている。	今年度は、行政からオンラインによる感染症対策に関する研修等の案内があり、参加している。日頃から、事故報告書の提出や運営における手続き、不明な点の問い合わせ等、直接窓口に出向いている。新型コロナ禍以前は介護相談員を受け入れており、収束後は再開予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束チェック表を作成し毎月ユニット会議にてスタッフ全員が内容の確認を行っている。	毎月各ユニットの管理者3人が、身体拘束や虐待防止に関する資料を作成し、ユニット会議内で勉強会を開催している。また、その資料を運営推進会議に提出し理解を深めている。毎月、職員が「虐待防止チェックリスト表」を用いて点検し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月ユニット会議にてスタッフ全員が内容を確認し虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年一回の権利擁護に関する研修を行い制度について学ぶ機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時や改定時には文書および口頭での説明を行い、内容に納得をもらった上で契約していただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より利用者・家族との関わりの中で意見や要望を気軽に聞き出す信頼関係を築くように心がけている。また家族会の集まりの中で出た意見やアンケートを参考にケアや運営に生かしている。	新型コロナ禍のため面会は中断しているものの、家族に安心してもらうためビデオ通話や本人の状況が良い時の動画を送る他、毎月利用者の生活の様子を職員の手書きの手紙と写真を添えて、家族に知らせている。電話でも様子を伝えており、その際家族の意見や要望を聞き出している。コロナ禍による要望の中で差し入れを受け入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気軽に意見や要望を言える関係を築き、ユニット会議での提案・意見を聞き改善に努めている。	職員は毎日のミニカンファレンスや日常業務の中で、意見要望を表出している。管理者は毎月、「職員セルフチェックリスト」を基に個人面談を行うと共に、希望休の反映やライフステージに合わせた勤務形態や資格取得の補助など働きやすい職場づくりに努めている。利用者に関する職員提案の反映事例は多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間内に仕事が終わるように工夫し各自が向上心を持ち心に余裕が出来る様な環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の新人研修をはじめ毎月の法人内での研修、個人に応じた外部研修は施設がサポートしてくれるので研修を受ける機会が確保しやすい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などを通して他施設の職員との交流を進め、ネットワーク作りを行いサービスの質を向上出来る様に取り組んでいる。現在は、コロナの影響により交流を自粛している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話に寄り添い誠実に対応し信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話に寄り添い誠実に対応し信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望や困っている事など『現在』を重視し見極め段階に応じた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとりの人として出来る事は出来るだけ自力に行えるような支援を行い共に楽しく生活出来る。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が負担にならないように介入を促し楽しく生活支援が出来る様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人に行きたい所を聞き出掛けたり、馴染みの人との面会を楽しめるよう雰囲気作りを行っている。現在、コロナの影響で外出や面会は自粛している。	コロナ禍の中で面会や外出は自粛中であるが、感染リスクの低い時期には家族との条件付き面会を断続的に行い、久しぶりの再会に利用者・家族が喜んでいる。職員は本人が在宅時に好きだった音楽を流したり、家族や友人との手紙のやり取りや電話を掛けることを手伝う等、馴染みの関係が途切れないよう継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し孤立しないように職員が間に入り関わり支えあえるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に転居した際は御家族に連絡を入れてから一緒に訪問し、同じ時間を過ごす様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時アセスメントや日々の関わりの中で情報の収集、及び定期的なカンファレンスなどを通して本人の思いや意向について検討している。意思疎通が困難な方には出来るだけ本人らしく過ごせるよう家族との話し合いを行っている。	職員は、利用者の生活歴や在宅時の1日の過ごし方を把握し、利用者とは1対1の場面や会話の中から思いを汲み取っている。コミュニケーションが苦手な利用者や表出困難な場合は表情や態度で判断している。汲み取った情報はミニカンファレンスや記録に残し共有し、利用者が1日をストレス無くゆったりと過ごすことを目指している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時及びその後の関わりの中から少しずつ情報収集を行いバックグラウンドの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族の話及び日常の観察を行い本人の状態や能力、現在の暮らし方、望む暮らし方などの情報を収集しアセスメントに繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日カンファレンスを行い課題やケアの在り方を検討している。本人の課題や要望を汲み取り、ケアに反映出来るように家族や関係者、毎月の職員会議で話し合っている。コロナでの密を避ける為、書面での会議を行っている。	6ヶ月の目標を設定し介護計画を立てている。ケアプランチェック表を基に毎月ユニット会議の中で全職員でモニタリングを実施し、医師の意見を取り入れ、計画作成担当者が計画の見直しに繋がっている。また、介護計画は家族の同意を得て実践している。ただし、計画に反映すべき家族の意見・要望を計画書の郵送後に尋ねている。	家族は、事業所の計画案に対して意見・要望を発することを遠慮すると思われる。家族の意見・要望が計画に反映できるように、聞き取り方法の工夫・検討が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや記録物の確認を通して現状を把握し情報の共有を図っている。カンファレンス等を通してケア方法の見直しや工夫を行い必要に応じて計画の変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内で提供できるサービス以外にも、家族や本人からの要望に応じ出張マッサージなど柔軟にサービスの提供を行うよう対応している。コロナの影響により、現在は面会は自粛となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の能力に応じ活用できる地域資源を考え公園や商店に出掛け交流している。現在はコロナの影響により、外出の自粛を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は当法人の医療機関になっているが、それ以外の専門分野に関しては本人の必要に応じ、家族とも話し合った上で受診し、適切な医療が受けられるよう支援を行っている。	内科・認知症に関しては、全利用者が階下の法人医療機関をかかりつけ医としている。職員は毎朝、医療連携シートにて利用者の状況を副院長に報告している。24時間連携体制があり、緊急時は院長が他協力医療機関へ依頼する等、適切な医療体制を整えている。専門医への通院は基本的に家族が付き添い、面会の機会にもなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日医師と看護師に個々の利用者の状態を申し送り、必要なケアを受けられるようになっている。また週1回副院長の往診と訪問看護が実施されており、日常の関わりの中で得られた情報や気付いた点を伝え、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当法人の医療機関からの紹介での入院になるため、日頃から関係作りは出来ている。またグループホームが医院に併設されている点から早期退院も可能であり病院との連携はスムーズに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居当初より、重度化したターミナルケアの在り方を共に話し合っている。医療機関に併設されている為、医師・看護師からのケアも十分に受ける事が出来る。	契約時に重度化した場合における看取り指針を基に家族に説明し、同意を得ている。利用者の状態の変化に応じて、医師を交え家族と話し合い、意向を確認している。事業所は、職員の入職時に看取り支援を行うことを伝え、看取り介護の研修を行っている。全職員が協力し、本人・家族が安心して最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修の年間スケジュールの中に組み込んだり、日々の勤務の中で対応の仕方を確認したり、訓練を行って緊急時に対応出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月消防訓練を行なっている。自治会の方への参加も呼びかけ、地域との交流も深め、協力を得られるように働きかけている。現在はコロナの影響で密を避ける為、交流は自粛している。	毎月の自主訓練は、日中・夜間想定で新人職員を主として実施している。年1回、総合避難訓練を消防署立会いで行い、評価を受け課題を抽出している。また、年2回、地震、水害等の災害訓練を行い、立地条件による浸水等を想定した避難対策を図っている。非常持ち出し品や建物の屋上には貯水タンク、土嚢等を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや声の掛け方、振る舞いなど接遇を徹底し、ひとりひとりが誇りを損ねたり、不快な気持ちにならないように注意している。特に羞恥心を伴うケアやそうした内容の会話は注意して対応するようにしている。	職員は、利用者一人ひとりの尊厳を重視し、苗字にさん付けで呼んでいる。また、職員の言葉遣いや態度等をユニット会議で振り返りを重ねている。居室のドアは閉めるよう徹底しており、本人のプライバシー保護に配慮している。個人ファイルは所定の場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向をまず確認し、それに合わせてこちらの要望を提案するなどし、最終的に納得して自己決定出来る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望やペースにあわせて、職員が柔軟に対応するよう心がけている。全員のニーズとのバランスを図りながら可能な限り本人の希望に沿った対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の意向に沿って身だしなみを整えるようにしている。本人のこれまでの習慣を考慮し、それに合わせた対応をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の内容と形態、本人の好みや家族からの要望も取り入れている。ひとりひとり嚥下状況などを考慮しながら、形態や摂取方法を工夫している。準備や片付けなどの際に出来る限り役割を持ってもらっている。	食事は法人厨房で献立を立て調理している。年2回の給食会議の他、検食で気づいた点はその都度調理担当職員に伝えている。キザミ食やムース食等本人に合わせて提供している。おせち料理やクリスマス等の行事食、ユニット毎に誕生日ケーキを作り飾りつけを利用者で行う等、食事が楽しい時間となるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる時間や1回量はひとりひとりの状態に応じて調整している毎日食事及び水分量をチェックし過不足が無いようにしている。毎月のユニット会議や日々のカンファレンスにて食事量や内容の検討を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはひとりひとりに合わせた対応を行い、誤嚥性肺炎を発症しないように気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、ひとりひとりのパターンを把握している。出来るだけトイレで排泄出来る様に心がけており、必要に応じて2人で介助するなど本人の能力に応じた対応をしている。	職員は排泄チェック表を基に、排泄リズムを把握共有し排泄支援を行っている。トイレでの座位排泄を基本に、車椅子の利用者は2人介助で支援を行い、毎日のミニカンファレンスで排泄状況を確認し、パッド類の見直しや支援方法を検討し、排泄の自立支援に取り組んでいる。適切な支援でパッド類の使用が減少している事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の調整や食べ物等での便秘予防を行っている。それでも難しい時には本人に負担のかからない方法で排泄出来るように医療職と連携しながら投薬や排便調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その時々々の状態や意向に合わせて時間帯・曜日を変更するなど柔軟な対応をしている。入浴が困難な場合でも清拭や手浴・足浴を行うなど、清潔保持に努めている。	入浴は、週2回を基本としており、湯は一人ずつ入れ替えている。気分や体調に合わせて、時間や日を変え入浴を促し、入浴出来ない時は清拭や足浴、手浴を行っている。車椅子の利用者は体調によって湯に浸かるかシャワー浴を選択している。希望があれば同性介助で対応し、季節の菖蒲湯、ゆず湯など入浴を楽しむ支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの状況や家族の意向に沿った寝具の調整、環境の整備、入床時間の調整を行っている。日中でもフロア及び居室で自由に休む事が出来るように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとりの薬について全職員が内容や目的、副作用などに理解するよう説明している。服薬時には内容の確認を徹底しており、利用者が安心して服薬できるように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとり生活の中で楽しみを見つけ出し、笑顔で過ごせるように工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の要望に合わせて外出・外気浴を行っている。家族にも声を掛け、季節ごとのドライブや様々なイベント等の見物やおやつを食べに出かけている。現在、コロナの影響により、外出は自粛している。	コロナ禍の中では以前のような気軽な外出は厳しく、感染状況を見て近くの公園へ散歩に出掛けている。また、事業所屋上で外気浴を支援し、プランターに咲く花を見に行くなど気分転換を図っている。現状は外出が出来ない状況であるため、屋内活動の充実に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金は、金庫にて保管し手居る。利用者個人のお買い物の際に、支払い能力が無い方の分は、代わりに支払いを行い、出納帳に記載し、毎月コピーと、領収書をキーパーソンに送っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話を希望される場合には、自由に電話を掛ける事ができるように取り計らっている。家族から要望があった場合にも電話で本人と話してもらうなど、双方の安心に繋がる支援をしている。希望に応じテレビ電話などの支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースはいつも整頓された状態を保ち、光や温度、排泄の際のにおいなどにも配慮するように心がけている。また、季節ごとに飾り付けを行い季節感を感じていただけるように工夫している。	リビングの採光は良く、利用者が寛げるようソファとテレビを配している。懐かしい童謡が流れる中、利用者がスポーツ観戦を楽しんだり、洗濯物たたみ等の役割を持ち過ごす様子も窺える。眼の疾患がある利用者のためカーテンを開閉して採光を調整している。毎日、清掃、換気、消毒等を徹底し、居心地のよい共用空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはテーブル席以外にもソファがあり、団欒を楽しんだり、休んだりする事ができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の思い出の品や馴染みのある家具を置いて心地良く過ごせるようにしている。本人の状態や家族の希望に応じた環境作りが出来るように話し合いながら模様替えを行っている。	それぞれの居室にはテレビや孫が描いた絵、位牌、ぬいぐるみや化粧品等自由に持ち込んでいることがわかる。各居室に洗面台があり、鏡があることで本人が落ち着かなくなる場合は取り外すなど細やかな配慮が窺える。毎月の寝具交換や週1回のリネン交換、毎日の清掃、換気、空調管理により落ち着く居室となるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前に顔写真や名前を貼り、トイレやお風呂などの案内板を設置している。またバリアフリーである事で、歩行や移動際の転倒・転落事故のリスク軽減に繋がっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100306		
法人名	医療法人長寿会 清原龍内科		
事業所名	グループホームイチヨウの木 銀杏		
所在地	長崎市川口町8-20		
自己評価作成日	令和3年12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和4年5月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症であれば、どのような利用者でも受け入れており、適切な介護と医療サービスの提供を行い、看取りまで行っている。現在、平均介護度が4.3を超えており、要介護5と4の利用者がほとんどで、認知症による周辺症状が強く個別対応を細やかに行い、家庭的な雰囲気の中でも認知症に対する専門的な対応を行っている。医療機関に併設されていることにより、急変時から看取り時までの医療的なサービスをタイムリーに提供出来ており、入院等に伴う大きな環境変化を経験することが少なく、利用者は住み慣れた環境の中で穏やかに暮らす事が出来ている。その事が家族の安心にも繋がっていると思われる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時や事業所内研修で理念について説明し共有・実践している。また理念を目立つ所に掲示し、常に全職員が確認できるようにしている。介護理念には、地域に根ざしたグループホームを目指すことを掲げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や学生の実習などを通して、グループホームの役割や認知症についての理解を深めて貰えるような話をしていたが、コロナ渦の為外部との関わりが出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回書面での定期開催を実施しており、事業所の活動状況や外部評価、防災訓練等の実施状況、結果報告、虐待防止の勉強会をしている。運営推進会議での意見をその後の活動に取り入れている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	人員配置や入居者の処遇等、必要に応じて連絡を取っている。コロナ渦の為今回は介護相談員の受入れが出来なかった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為について、毎月チェックを行っており、内容の確認を行うと共に、玄関の施錠は行わないこととし、身体拘束の廃止に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束とあわせ虐待に関する勉強会を定期的に行なっている。虐待につながるような言動を行っていないか、管理者、職員共に確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者もおり、そうした制度について学ぶ機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用契約書・重要事項説明書をもとに本人・家族に十分な説明を行いご理解いただいている。改定時にも、文書および口頭での説明を行い、内容に納得をしてもらった上で契約を行なうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の関わりや家族会等での意見交換の場を通して意見や要望を聞くようにしているが、このコロナ渦で家族会ができていないぶん家族への連絡を密に行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の勤務の中で意見交換や方針を話す事ができる環境を作りをおこなっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の実績や努力に対する評価を行い、昇進や昇給、賞与という形で待遇面についても心がけて頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法人内での研修に加え経験年数や実績に応じた外部研修部、日々のOJTなどによる個別指導を行っており、働きながら学ぶ事ができるようサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などを通して同業者と意見交換を行なっている。また往診先の他施設の取り組みを紹介するなど、サービスの質の向上のための提案を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネや主治医からの情報提供に加え、本人が今必要としている事、不安に思っていることなどを本人や家族へのヒアリングや観察を通してアセスメントを行い、本人が安心して暮らしていけるよう関わり方を工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の想いや悩みについてシートを用いてヒアリングやアセスメントを行い、出来る限り要望に沿うことができるよう努めている。こまめに報告を行ったり、連絡をとることで、信頼関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族、医療職と連携し、今必要なことは何かを見極め、これまでの生活の継続も含め、臨機応変な対応ができるよう、心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る能力を見極め生かして、少しでも自立した生活を送ることができるよう支援を行っている。自分の役割を持ってもらうことで、暮らしの中で生活者として意識を持ってもらうようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との信頼関係作りに努め、家族が訪問しやすい雰囲気作りに努めているが、現在はリモートによる面会と期間限定面会を行い密に連絡を取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会を行ってきたが、現在コロナウイルス感染予防の為面会や外出を控えている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の共通の好みなどを通し、ともに時間を過ごせるよう支援している。また、普段は一緒に過ごすことがない人同士でも、職員が間に入って会話するなど、共に時間を過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからでも手紙やアルバムを作成し送るなど関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや日常の関わりの中から、本人の思いや意向について把握するよう努めている。意思疎通が困難な方も多いが、出来るだけ本人らしく過ごせるよう、家族とも話し合いを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネや主治医による情報提供に加え、関わりの中で本人・家族より少しずつ情報収集を行い、バックグラウンドの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、一人ひとりの状態を観察して過ごし方の好みや、心身の状態の把握に努めている。また、家事やレクリエーション、作業などを通して有する能力の現状把握を行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日カンファレンスや毎月の会議の際に本人の課題や要望をくみ取り、それをケアに反映できるよう家族や関係者とも話し合い、現状に合わせて計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個別記録を記入しており、その内容を申し送りを通して共有している。利用者の状態変化に応じてケアの方法を変更し、実践するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出など事業所内で提供できるサービス以外にも、家族や本人からの要望に応じ、外部サービス(マッサージ・理美容等)の利用を行えるよう対応しているが現在コロナウイルス感染予防の為中止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の能力に応じ、活用できる地域資源考え、公園や商店に出掛けたり、音楽会やレクリエーションのボランティアなどの受け入れを行っていたが、現在コロナウイルス感染予防の為中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は当法人の医療機関になっているが、それ以外の専門分野に関しては、本人の必要に応じ、家族と話し合った上で受診をし、適切な医療を受けられるよう支援を行なっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、医師と看護師に個々の利用者の状態を申し送り、必要なケアを受けられるようになっている。医療連携に力を入れており、適時適切な医療的ケアを受けることが可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当法人の医療機関からの紹介での入院になるため、日頃から関係作りはできている。また、グループホームが医院に併設されている点から、早期退院も可能であり、病院との連携はスムーズに行えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針、同意書を作成し説明して同意を得ている。本人の気持ちを大切に、家族とも話し合い、利用者が安心してターミナル期を迎えられるようマニュアル等も作成して取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修の中で緊急時、事故発生時の対応について勉強している。また日々の勤務の中で、対応の仕方を確認したり、訓練を行って、緊急時に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月の消防訓練および避難訓練・年2回の防災(地震・風水害)訓練を行なっている。また防火点検を行い、全館を禁煙とし、火事防止に努めている。自治会の方へ防火訓練参加の呼びかけも行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや声のかけ方、振る舞いなど、接遇を徹底し、一人ひとりが誇りを損ねたり、不快な気持ちにならないよう注意している。特に羞恥心を伴うケアやそうした内容の会話は注意を払って対応するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えに耳を傾け、それに合わせてこちらの要望を提案するなどし、最終的に納得して、自己決定できる様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なスケジュールはあるが、本人の希望やペースに合わせて、職員が柔軟に対応するよう心がけている。全員のニーズとのバランスを図りながら、可能な限り個人の希望に沿った対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の意向に沿って服装や髪型などの身だしなみを整えるようにしている。本人のこれまでの習慣なども考慮し、本人に合わせた支援を行うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなどの際に出来る範囲で役割を持ってもらっている。食事の内容はその人の好みや家族からの要望も取り入れている。一人ひとりの嚥下状況などを考慮しながら形態や摂取方法を工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分のチェックを毎回行い、量をモニターしている。食事形態は本人の咀嚼や嚥下の状態に合わせて調整しており、一ヶ月を通して体重の管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 本口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは本人の出来る事は本人にやってもらいながら、汚れやにおいのケアを行っている。誤嚥性肺炎の防止のため、食事をとらない方にも1日数回の口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、チェック表から一人ひとりのパターンを把握している。出来るだけトイレで排泄できるよう努力しており、必要に応じて声かけや二人で介助するなどし、本人の能力に応じた対応を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の調整や食べ物等での便秘予防を行なっている。それでも、難しいときには、本人にとって苦痛の少ない形で排泄できるよう、医療職とも連携しながら薬で排便調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的なスケジュールはあるが、その時々々の状態や意向に合わせて、時間帯や曜日を変更するなど柔軟な対応を行っている。入浴が困難な場合も、清拭や手浴・足浴を行うなど、清潔保持に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況や家族の意向に沿った寝具の調整や、環境の整備、入床時間の調整を行なっている。日中でも、フロアおよび居室で自由に休む事ができるように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬について職員全員が内容や目的、副作用等について理解するよう説明をしている。またすぐに薬剤情報が見れるようにしている。服薬時には、服薬内容の確認の徹底をしており、利用者が安心して服薬できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なこと、趣味などを把握しており、それぞれにあった活動を行ってもらえるよう支援することで、笑顔を引き出せるような関わりを工夫している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の要望に合わせて外出や外気浴を行っていたが、現在コロナウイルス感染予防の為行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員がお金の管理は出来ない為、お金は事務と管理者で共有し毎月ご家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話を希望される場合には、自由に電話を使うことができるよう取り計らっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースはいつも清潔で整頓された状態を保つようにし、温度や光の調整もこまめに行なっている。また季節やイベントごとの飾り付けを行い、季節感を感じてもらえるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースの中にもソファを置いてリラックスできるよう工夫している。テーブルの座席なども工夫し、気の合う人同士と一緒に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の思い出の品物やなじみの家具を置いて心地よく過ごせるよう工夫している。本人の状態や家族の希望に応じた環境づくりができるよう、話し合いながら模様替えを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造で、本人の持てる能力を発揮しながら生活できるようになっている。それぞれの居室には顔写真入りの表札・トイレやお風呂には案内版を設置し、見分けがつくようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100306		
法人名	医療法人長寿会 清原龍内科		
事業所名	グループホームイチヨウの木 青葉		
所在地	長崎市川口町8-20		
自己評価作成日	令和3年12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和	年	月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症であれば、どのような利用者でも受け入れており、適切な介護と医療サービスの提供を行い、看取りまで行っている。現在、平均介護度が3を超えており、重度化した利用者への対応のみならず、比較的軽度な利用者のその時々意向に合わせたり、認知症による周辺症状が強い利用者への個別対応を細やかに行うなど、家庭的な雰囲気の中でも、認知症に対する専門的な対応を行っている。医療機関に併設されていることにより、急変時から看取り時までの医療的なサービスをタイムリーに提供出来ており、入院等に伴う大きな環境変化を経験することが少なく、利用者は住み慣れた環境の中で穏やかに暮らす事が出来ている。それが家族の安心にも繋がっていると思われる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員に運営推進会議に参加してもらっており、常々報告や相談を行っている。地域ケア会議等の参加も積極的に応じる様にしており、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を行っており、全職員が身体拘束の禁止事項を理解している。また、一切の拘束を行わないよう、全力で支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での研修会で毎年テーマとして取り上げて学習している。また、職員を外部の研修会に参加させ、意識を高めるように努めておりユニット会議内にて内容振り返りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者もおり、そうした制度について学ぶようにしている。個々の利用者や家族の状況を考慮し、サービスの活用についても共に検討するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には、管理者が十分な時間をかけて説明を行っており、本人や家族の不安や疑問に丁寧に答える事で理解と納得を得る様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段からコミュニケーションをこまめに行っているが、それ以外にも、意見箱の設置や、年に一度家族懇談会を行っており、アンケートや意見交換を行い、要望等を聞く様にしている。また、そのような機会に出た意見を改善に役立てているが、現在コロナ過の		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議のみならず、必要に応じて代表者や管理者と職員が話す事が出来ており、運営や待遇等についての話しをする事が出来ている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人個人の働き方に関する意向を把握しており、それが満たされるよう配慮している。また、個人の特性を見極めた人事や待遇を行い、やりがいを持って働けるよう工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に職員一人一人の状態を確認、把握するよう努めており、必要に応じて研修にも参加させている。立場的なステップアップや、仕事を通して職員として成長できるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の際に同業者と交流する機会があり、他事業所の状況について情報を得たり、交流する事が出来ている。他事業所の良い取り組みがあれば、当事業所でも取り入れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは本人が安心できる環境を作る事ができるよう、要望の聴取に努め、観察を通して物理的、人的環境を整えている。本人が安心して暮らしているけるよう、これまで利用していたサービス事業者等からも情報を細かく得る様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活の中での困りごと、これからの不安について確認するようにしている。また、家族が安心して利用者を預ける事が出来るよう、ケア内容のみならず、接遇や環境整備等、ソフトとハードの両面から信頼を得られる様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護保険サービスのみならず、個々の状況に応じ、暮らし方の意向に沿えるよう、サービスの提供や説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	重度の利用者が多く、介護する事の方が多いが、人生の先輩として接するように意識しており、会話や行動の中から垣間見える、これまでの暮らしについて、利用者とは話したり、考えたりすることで共に暮らしを楽しむ事が出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	それぞれの家族の事情や意向に応じて、可能な範囲で家族が介護参加できるよう、環境を整える様にしている。また、家族によるボランティアも受け入れる様にしており、共に利用者を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や馴染みの人が希望すればいつでも会う事ができるようにしている。また、思い出の場所や行事ごとへの参加も出来るよう支援しているが現在コロナ過のため自粛している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や、その時々々の精神状態に応じて周囲の人と関わり合いながら孤立しないよう環境を整えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りを行った後も、時々家族と連絡をとったり、訪問してくる家族をもてなし、現状の生活について話をしたり、利用者の思い出について話す機会を持つなど、関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉や行動を通して思いや意向を把握しケアに生かしている。寝たきりの場合等、意思疎通困難な場合は、過去の本人の意向や、それを踏まえた家族の意向を尊重し、ケアを行う様にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントを行い、基本的な内容については把握しているが、介護実践の中で見えてくる事についても、随時家族等への確認を通して、詳細を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的な状態に加え、日々変化する状態についても職員同士で情報交換を行っており、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時にまず必要なケアについての話し合いを家族と職員とで行う様にしている。その後も最低1か月に1度は計画を全員で見直すなど、チームでより良い介護を行えるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の中で、利用者の状態変化や有する能力などについての気づきを記入し、職員同士で共有することにより、異常の早期発見や新たなリハビリ、介護方法等の検討などに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自費ヘルパーを利用した自宅帰省や訪問美容等、本人や家族の意向に合わせたサービスを提供できるよう、情報収集や情報提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの活用や、地域の中にあるハードの利用など、必要に応じて地域資源を活用できるよう支援しているが、ボランティア受け入れは現在コロナ過のため中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全利用者が法人内の医院の患者ではあるが、これまでに利用してきた他の医療機関にも継続して通院したり、新たな専門医療を受けられるよう通院したり、往診を依頼するなど、最適な医療を受けられるよう努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に相談する事が出来る体制を築いており、常に利用者にとって必要な医療・看護が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人は認知症であり、家族も日頃の状態を正確に把握している訳ではない為、救急搬送時を含め、入退院時には職員が必ず付き添い、利用者の情報交換を密に行っている。また、早期退院に向け、病院との連絡をこまめに取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から看取りについての話し合いを行っており、意向の確認をしている。また、状態の変化に合わせて、意向の再聴取や方針の説明、今後の経過等について、医師や看護師を含めた関係者との話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応については新人職員の段階から説明を行っている。また、応急処置等も各自が技術を習得できるよう定期的に研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	災害訓練、消火訓練を定期的実施し、全職員に周知している。運営推進会議の際に消防訓練を実施しており、地域の協力体制を築いている。建物内を禁煙とするとともに、火災防止のチェックリストを作成し、定期的に確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ馴れしい言葉使いや子供扱いする様な事がないよう、常に丁寧な接遇に努めている。同時に、本人にとって最も反応の良い声掛けや呼びかけも工夫している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行きたい所やしたい事、食べたいものなど、自分で選択が出来る人には、日常の細かな場面の中で、内容に応じて自分で選択できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のリズムに合わせてケアを組み立てており、職員側の都合だけで業務的にならない様にしている。本人のペースを尊重し、したくない事を強要しない事により、自己決定を尊重するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思や家族の希望などを積極的に取り入れ、その人らしさを表現できるよう、身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けが出来る利用者はいないが、本人の好みの食材や、食べ方に合わせた食事の提供を心掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して食事量、水分量のチェックを行っており、本人の体格や疾患等も考慮し、必要な量が確保できるよう、個人に合わせた提供方法なども工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしっかりと行い、口腔衛生と肺炎予防に努めている。歯科往診も必要に応じて受けており、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを通して、本人の排泄パターンを把握し、本人にとって最適な排泄用品の選択、トイレ誘導やオムツ交換のタイミングの工夫を行っている。極力トイレでの排泄が出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬を利用する場合もあるが、極力自然に排便できるよう、水分摂取や食事内容の工夫を行っている。食後のタイミングでのトイレ誘導など、負担がかからずスムーズな排便に繋がる工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な予定はあるものの、その時の本人の状態や希望を優先し、強要する事がないようにしている。また、本人が好む入浴形態をとることで、楽しみになると共に不快感を減らす様になっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室のみならず、共有スペースでも自由にくつろぐ事が出来るよう環境整備をしている。また、いつでも安心して休めるように、職員が見守りを徹底しており、本人の状態に応じて休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容について、目的を理解しており、作用、副作用についてもある程度理解している。常に容量や内容の変更を確認するようしており、本人の状態との関係を意識している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや関わりの中で、本人の得意な事、好きな事をしてもらう事で、笑顔を引き出す様にしている。また、意思表示が出来ない人でも好きな音楽をかける等の工夫をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクリエーションや関わりの中で、本人の得意な事、好きな事をしてもらう事で、笑顔を引き出す様にしている。また、意思表示が出来ない人でも好きな音楽をかける等の工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金という形を取り、事務が管理している。希望があればその中より購入するなど本人の望むようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙でのやり取りが出来る利用者は現在の所いないが、電話等用い時々やり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは快適に過ごす事が出来るよう、整理整頓に努め、季節ごとの飾り付けを行ったり、空調や明るさにも配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性を考慮し、座る位置や視界に入る場所などを工夫し、それぞれが穏やかに過ごす事が出来るよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人および家族の為の空間と考えており、整理整頓に努めると同時に、本人や家族が自由に使えるよう配慮している。使い慣れた物を置くなどし、自分の部屋であると分かるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	もともとバリアフリーになっているが、事故防止と本人の力を生かすという観点から、手すりをつけたり、本人の状態に応じてベッド以外の寝床にしたり、共有スペースでの家具の配置を変更する等の工夫を行っている		